



平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月12日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	8,544	0.8	246	25.3	299	16.6	196	24.1
30年3月期第2四半期	8,610	3.0	330	873.1	359	415.7	258	

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 198百万円 (27.9%) 30年3月期第2四半期 275百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	10.10	
30年3月期第2四半期	13.31	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	17,000	14,311	84.2
30年3月期	16,849	14,171	84.1

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 14,311百万円 30年3月期 14,171百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		3.00	3.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成31年3月期(予想)期末の配当につきましては未定であります。

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,942	3.7	265	11.0	348	10.0	234	29.6	12.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	21,076,154 株	30年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	1,667,769 株	30年3月期	1,667,675 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	19,408,439 株	30年3月期2Q	19,408,566 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。米国の通商政策動向など海外の政治・経済情勢の不確実性が影響し、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費につきましても、消費者マインドに改善の兆しが見えるものの、未だ本格的な回復には至っておりません。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に照準を当てた諸施策による事業収益の拡大を最重点課題とし、経営資源の効率的な活用を進め、成長軌道の一段高いステージへのステップアップを図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が前年比で僅かながら上回ったものの、売上高では8,544百万円（前年同四半期比0.8%減）と若干前年を下回り、売上総利益率は、主に品種別の売上構成比の変化の影響によって0.7ポイント減少しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は5,599百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。この結果、営業利益は246百万円（前年同四半期比25.3%減）、経常利益は299百万円（前年同四半期比16.6%減）となりました。また、特別損失として減損損失28百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は196百万円（前年同四半期比24.1%減）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

〔眼鏡小売事業〕

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた安心の視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した愛眼ブランドの強化を推進してまいりました。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとして、幅広い年齢層の多岐にわたるニーズに対応した快適で機能的な高付加価値商品を開発することで、品質・価格の両面において、競争力があり、お客様にとって納得の商品の品揃えの拡充に取り組んでおります。

売上高につきましては、主に低価格帯商品の販売数の減少等により伸び悩みました。品種別では、サングラスは、販売促進を進めましたが、売上は、前年同四半期比で若干減少しました。一方、補聴器は、販売促進を強化したことに加え、店舗におけるお試しレンタルサービスとアフターケアがお客様より好評を得ており、引き続き順調に推移しております。

店舗につきましては、2店舗を閉店し、既存店の活性化を目的とした改装を8店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は8,187百万円（前年同四半期比0.5%減）、セグメント利益は307百万円（前年同四半期比21.2%減）となりました。

〔眼鏡卸売事業〕

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する新規開発商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は235百万円（前年同四半期比3.8%減）となり、セグメント損失は0百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

〔写真館事業〕

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、お得な写真プランの充実を図るとともに、七五三写真前撮りキャンペーン、成人式振袖レンタルキャンペーン、卒業式袴キャンペーンなどを展開し集客に努めましたが、市場競争激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は45百万円（前年同四半期比16.7%減）、セグメント損失は36百万円（前年同四半期はセグメント損失35百万円）となりました。

〔海外眼鏡販売事業〕

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での競争環境が引き続き厳しい状況にあるなか、既存店の採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は75百万円（前年同四半期比4.0%減）、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント損失6百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は17,000百万円、負債合計は2,688百万円、純資産合計は14,311百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が10百万円増加し、純資産合計が140百万円増加した結果、自己資本比率は84.2%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、2,898百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは567百万円（前年同四半期比9.3%減）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益265百万円、仕入債務の増加額121百万円、売上債権の減少額109百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは199百万円（前年同四半期は△154百万円）となりました。

これは主に、投資有価証券の償還による収入300百万円、有形固定資産の取得による支出△109百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△117百万円（前年同四半期は△285百万円）となりました。

これは主に、リース債務の返済による支出△59百万円、配当金の支払額△57百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月11日に公表いたしました通期の連結業績予想につきましては、経費コントロールが順調に進んでいることや、売上高増進へ向けた施策に注力していることから修正は行っておりません。当該予想の修正が必要となる場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,014	5,659
受取手形及び売掛金	937	827
有価証券	300	—
商品及び製品	2,177	2,100
原材料及び貯蔵品	36	36
その他	173	224
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,636	8,846
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,022	991
土地	1,887	1,887
リース資産(純額)	17	8
その他(純額)	149	202
有形固定資産合計	3,076	3,090
無形固定資産		
リース資産	38	29
その他	10	8
無形固定資産合計	49	38
投資その他の資産		
投資有価証券	1,050	1,055
敷金及び保証金	3,400	3,338
その他	636	630
投資その他の資産合計	5,087	5,025
固定資産合計	8,213	8,154
資産合計	16,849	17,000

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	540	660
未払法人税等	186	143
賞与引当金	120	131
その他	1,152	1,130
流動負債合計	1,999	2,065
固定負債		
繰延税金負債	49	51
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	336	334
リース債務	124	69
その他	160	160
固定負債合計	678	622
負債合計	2,677	2,688
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,108	5,245
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,497	16,635
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	118
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	31	28
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,323
純資産合計	14,171	14,311
負債純資産合計	16,849	17,000

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	8,610	8,544
売上原価	2,656	2,698
売上総利益	5,954	5,846
販売費及び一般管理費	5,624	5,599
営業利益	330	246
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	6	5
受取家賃	33	34
その他	19	30
営業外収益合計	64	76
営業外費用		
支払利息	1	—
固定資産除却損	5	1
賃貸費用	21	20
その他	7	0
営業外費用合計	34	22
経常利益	359	299
特別損失		
投資有価証券売却損	—	1
投資有価証券評価損	—	3
減損損失	5	28
特別損失合計	5	34
税金等調整前四半期純利益	354	265
法人税、住民税及び事業税	94	69
法人税等調整額	1	0
法人税等合計	95	69
四半期純利益	258	196
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	258	196

（四半期連結包括利益計算書）
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）
四半期純利益	258	196
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	5
為替換算調整勘定	△1	△2
その他の包括利益合計	16	2
四半期包括利益	275	198
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	275	198
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	354	265
減価償却費	78	86
減損損失	5	28
賞与引当金の増減額(△は減少)	122	11
売上債権の増減額(△は増加)	△121	109
たな卸資産の増減額(△は増加)	29	74
仕入債務の増減額(△は減少)	85	121
その他	153	△31
小計	707	666
利息及び配当金の受取額	12	11
利息の支払額	△1	—
法人税等の支払額	△96	△111
法人税等の還付額	3	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	625	567
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	—	1
有形固定資産の取得による支出	△187	△109
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	0	—
投資有価証券の償還による収入	—	300
その他	35	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△154	199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△225	—
リース債務の返済による支出	△60	△59
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	△57
財務活動によるキャッシュ・フロー	△285	△117
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	184	648
現金及び現金同等物の期首残高	2,144	2,249
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,328	2,898

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	8,232	244	54	78	8,610	—	8,610
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	44	—	—	44	△44	—
計	8,232	288	54	78	8,655	△44	8,610
セグメント利益又は損失 (△)	390	△0	△35	△6	348	△18	330

（注）1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△26百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	5	—	—	—	—	5

（注）「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	8,187	235	45	75	8,544	—	8,544
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	45	—	—	45	△45	—
計	8,187	280	45	75	8,589	△45	8,544
セグメント利益又は損失 (△)	307	△0	△36	△6	264	△17	246

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△23百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：百万円）

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	10	—	18	—	—	28

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。